



安達香澄(2013.9フレット文祭公演)

捨子びじん(2013.9フレット文祭公演)

発見×創造

もうひとつの秋田

旅する文化

舞踏の始祖・土方巽の聖地にあつまる舞踏・舞踊の踊り手達

舞踏・舞踊公演

全国公募した舞踏・舞踊家による作品の発表

平成26年

日時○10月25日土 14:00開演(30分前開場)

26日日 10:00開演(30分前開場)

会場○秋田市文化会館 小ホール(入場無料)

※入場整理券が必要です。満席の場合は入場をお断りする場合がございます。

秋田出身の異才が創始して半世紀を過ぎた今、その優れた芸術性と精神性は「BUTOH」として今日でも世界各地で高く評価され、多くの舞踏家たちが継承し国内外で上演されています。本公演では、全国公募した踊り手のパフォーマンスをリレー公演。石井漠や土方巽の身体表現を内在しながら変容する、現在のパフォーミングアーツを堪能してください。

舞踏 踏フェスティバル in AKITA

出演者

Rapunzel 8083
× luna
× 蘿 雪葉奥村信子
バレエ研究所コスマス
舞踏研究所平多浩子
舞踏研究所根来裕子
& 福井陽介
negoro yuko
fukui yosuke南澤英幸
minamisawa hideyuki茅依桃子
mei momoko飯森沙百合
imori sayuri森下こうえん
morishita kouen阿久津智美
akutsu satomi島 崇
shima takashi成田 譲
narita mamoru新潟県
洋舞踏協会水野多麻紀
mizuno tamaki武田幹也
takeda kanya村中裕季
muranaka yuki歓迎の舞
川村泉舞踊団

入場整理券○秋田市役所1階案内カウンター、8月1日配布開始

今秋10月下旬、舞踏・舞踊で染まる秋田
「土方巽・舞踏の世界」

「第29回国民文化祭・あきた2014」秋田市主催事業の「舞踏・舞踊フェスティバル in AKITA」では、舞踏の始祖・土方巽の聖地にあつまる舞踏・舞踊の踊り手達というテーマで、全国公募のダンサーによる舞踏・舞踊公演や、土方巽の舞踏を継承する大駱駝艦・天賦典式「灰の人」秋田特別公演を開催します。また、企画展「土方巽・舞踏の世界」では、土方巽の舞台制作に関わった同時代の芸術家や背景となる秋田という原風景をひもとく構成で展示構成。実際に使用した舞台装置など秋田初公開をふくめ、総合芸術としての姿を紹介します。

国民文化祭を契機に、土方巽がつくりあげた深遠なる舞踏の世界を体感し理解していただくことで、秋田の文化として舞踏を誇り語り継がれていきます。



あきたびじん

秋田市



土方巽(1928 - 1986)は、身体表現の世界にまったく新しい表現世界としての「舞踏」を提示し、確立した舞踏家として知られています。土方は秋田市に生まれ育ち、県立秋田工業高校を卒業、市内でモダンダンスを学んだ後、20歳の頃から上京と帰郷をくりかえしながら様々なダンスを学びます。1959年(31歳)に暗黒舞踏の最初の作品となる『禁色』を発表。過激で鮮烈な舞台は、多大なインパクトあたえダンサーとしての地位を築きます。さらに既成のダンスを退けた前衛的で実験的なダンスを志向した創造活動を行い、68年の公演『肉体の叛乱』をもって舞踏を確立しました。

1970年代には、北国秋田の風土を背景に、日本人特有の肉体に新たなダンスの基盤を見いだし、西洋のダンス概念を覆す舞踏を追求、その最初の成果が『疱瘡譚』でした。土方巽が創造したダンスは、「BUTOH」としてヨーロッパでブームを巻き起こし、世界の舞台芸術の一潮流となりました。

土方巽の暗黒舞踏には、写真家の細江英公、作家の三島由紀夫や瀧澤龍彦、美術家中西夏之や横尾忠則といった多くの前衛芸術家が、舞踏のために文章を寄せ、舞台にのせる美術作品を制作し、公演ポスターをデザインし、土方の踊りをカメラに収めました。舞踏というひとつの身体表現のジャンルにとらわれず、美術や写真・映画など多くの前衛芸術家と深く結びついた至高の世界が存在しました。



舞踏
フェスティバル
in AKITA

平成26年
10月23日木 = 28日火

10:00~16:30(入場は30分前)

秋田市文化会館 地下展示ホール★入場無料

企画:舞踏・舞踊フェスティバル in AKITA企画委員会／慶應義塾大学アート・センター 土方巽アーカイブ(森下 隆)

協力:特定非営利活動法人舞踏創造資源／土方巽記念秋田舞踏会

土方巽・舞踏の世界

企画展示



「骨鉗身鋏死人葛」での土方巽
撮影：細江英公1970



舞台幕「筋膜判断」制作：赤瀬川原平1965



舞台装置「ピクターの犬」
制作：中西夏之



「疱瘡譚」撮影：小野塙 試1972



「肉体の叛乱」撮影：長谷川 六1968



玉野黄市に振り付ける土方巽
撮影：細江英公1972



秋田では23年ぶりとなる土方巽展。新しさと、とりわけ、舞踏活動の歴史をたどり、土方舞踏史を俯瞰します。土台装置で紹介し、後期の深化した舞踏の多様性を写真や詩文で蘇らせます。舞踏のメソッドや舞

を
考
え
て
何
よ
り、
土
方
巽
の
秋
田
の
原
風
景
に
出
会
い
た
い
と
思
う
と
な
る
一
度
見
つ
め
直
し
ま
す。
少
年
土
方
巽
集
「
錆
鉄
」
を
育
み
「
病
め
る
舞
姫
」
の
自
然
を
創
造
し
て
舞
踏
の
母
胎
と
し
て
の
革
命
と
し
て
の
生
地
秋
田
に
注
目
し
ま
す。
土
方
舞
踏
史
を
俯
瞰
し
て
舞
踏
の
言
葉
を
映
像
や
詩
文
で
蘇
ら
せ
ま
す。
舞
踏
の
メ
ソ
ド
や
舞
舞

や
人
を
も
う
一
度
見
つ
め
直
し
ま
す。
秋
田
初
公
開
も
あ
る
写
真
や
ボ
ス
タ
ー
、
舞
台
装
置
や
舞
台
衣
装
を
通
じ
て
舞
踏
誕
生
の
現
代
的
意
義
を
探
り
ま
す。
蔓
映
像
や
言
葉
な
ど
多
彩
な
展
示
物
を
通
じ
て
舞
踏
誕
生
の
現
代
的
意
義
を
探
り
ま
す。

第29回 国民文化祭秋田市実行委員会

[主 催 者] 文化庁／秋田県／秋田市／秋田市教育委員会

第29回国民文化祭秋田県実行委員会／第29回国民文化祭秋田市実行委員会

[問い合わせ先] 第29回国民文化祭秋田市実行委員会事務局(秋田市国民文化祭推進室)

〒101-8560 秋田市山王 1-1-1 TEL.018-866-8782 FAX.018-866-2458

E-mail kokubunsai@city.akita.akita.jp

秋田市 国民文化祭あきた2014 ウェブサイト

国民文化祭 秋田市

検索

www.akitacity-kokubunsai2014.jp

昨年の上小阿仁プロジェクト、国民文化祭。ブレ公演での金粉舞踏のメンバーが再び登場！磨赤兒率いる「大駱駝艦」の秋田特別公演！

日時 ○ 平成二十六年十月二十六日（日）
午後二時開演（開場は三〇分前）
会場 ○ 秋田市文化会館・大ホール

大駱駝艦・天賦典式

大駱駝艦 プロフィール
1972年創設。磨赤兒主宰。
その様式を天賦典式（てんぶてんしき）と名付け、常に忘れ去られた「身振り・手振り」を探集、構築しすでに60を超える作品を生み出している。1982年舞踏カンパニーとしては、初のフランス、アメリカ公演を行い、鮮烈なインパクトを与えて「Butoh」を浸透させる。
大駱駝艦では若手舞踏手育成に力を注ぎ、山海塾の天児牛大、室伏鴻など、数多くの舞踏グループを輩出してきた。現在、吉祥寺を拠点とする大駱駝艦スタジオ「壺中天（こちゅうてん）」において所属メンバーによる様々なユニットの作品を上演し続けている。
一般の人を対象にした舞踏ワークショップ「無尽塾（むじんじゅく）」、夏は長野県白馬村において合宿を実施している。
1974年、87年、96年、99年、07年舞踏批評家協会賞受賞。

灰の人

上演作品「灰の人」

2011年3月17日～21日世田谷パブリックシアターにて初演、
その後11月にはパリ（フランス）公演、
2012年10月にはメキシコシティ（メキシコ）公演を行い、
各地で大好評を得た作品。

「灰の人」とは

もはや燃え尽きた「灰」か、一切を灰にして黄泉がえるのか、
滅びと再生の物語である。
そのジレンマを大いに遊ぶのが、今回の「灰の人」のをどりである。
つまり「灰」は強大な非存在を司り、あらゆる存在を翻弄する。
その灰はトリッキーで不可解である。

その灰は、まさに「灰」から、一切を灰にして黄泉がえるのか、
滅びと再生の物語である。
そのジレンマを大いに遊ぶのが、今回の「灰の人」のをどりである。

磨赤兒（まろあかじ）プロフィール
1943年生まれ。奈良県出身。
1965年、唐十郎の劇団「状況劇場」に参画。唐の「特權的肉体論」を具現化する役者として、60～70年代の演劇界に大きな変革の嵐を起こし、多大な影響を及ぼす。
1966年、役者として活動しながら舞踏の創始者である土方巽に師事。
1972年、舞踏カンパニー「大駱駝艦（だいらくだかん）」を旗揚げ。
舞踏に大仕掛けを用いた圧倒的スペクタクル性の強い様式を導入。「天賦典式」（てんぶてんしき）と名付けたその様式により日本はもちろん、1982年のフランス・アメリカ公演で大きな話題となり、「Butoh」の名が世界を席巻する。磨赤兒の考え方である「一人一派」を実践。山海塾の天児牛大、室伏鴻など舞踏団、舞踏手を多数輩出しており、現在、東京・吉祥寺にあるスタジオ「壺中天」（こちゅうてん）を拠点とし様々なユニットを内蔵し、大駱駝艦・天賦典式公演並びに壺中天公演を精力的に行っている。
役者としての活動も著しく、特に映画においては「月はどちらに出ている」「菊次郎の夏」「KILL BILL」「まほろ駅前多田便利軒」などの超大作話題作、若手監督作品に立て続けに出演し、その独特的な存在感は、今日の映像界ではなくてはならない存在となっている。TVでは「軍師官兵衛」、「花園オールドボーイ」、舞台では「毛皮のマリー」、「ジバング・パンク～五右衛門ロックIII」「荒野のアリア」に出演するなど、役者として新境地を築き進んでいる。
舞踏家としては、2013年モンペリエ・ダンス・フェスティバル（フランス）、ノルマンディ・フェスティバル（フランス）、マドリード・ダンス・フェスティバル（スペイン）で公演を行い大きな評価を受け、2014年メキシコでの公演が決定している。
2006年度文化庁長官賞受賞。

舞踏フェスティバル
in AKITA

第29回 国民文化祭
あきた2014 発見×創造

秋田のみなさまへ
我が師であり、舞踏の創始者・土方巽の生誕・摇籃の地、秋田にて
我が大駱駝艦の公演を行えますことを、大変光榮に思っております。
古き日の厳しい秋田の風土を背負い、世界のダンスシーンに革命的激震を走らせ、
舞いきった師の想いを、我々もまた背負い、
皆さまの前に舞踏体を供物として捧げる所存であります。
しかと受け取って戴ければ幸いであります。
磨赤兒（大駱駝艦主宰・舞踏家・俳優）

チケット料金○一般／前売2,200円・当日2,500円（各税込）

大学生以下／前売1,200円・当日1,500円（各税込）／全席自由

チケット発売○ローソンチケット／caoca広場（秋田駅トピコ内）9月1日発売開始

振付・演出：磨赤兒
出演：
磨赤兒
村松卓矢
田村一行
松田篤史
塩谷智司
奥山ばらば
小林優太
我妻恵美子
高桑晶子
鉢久奈緒美
藤本梓
梁鐘譽
伊藤おらん
齋門由奈
岡本彩
三田夕香

音楽：土井啓輔
衣裳：堂本教子
美術：安部田保彦
舞台監督：中原和彦
舞台監督助手：田中翼
大道具：渡部景介
湯山大一郎
若羽幸平
小田直哉
照明：森規幸（balance,inc.DESIGN）
照明操作：田端真実
音響：及川誠之（SHOW-YA project）
制作：山本良
プロデューサー：新船洋子

撮影：荒木経惟2012